# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1、2期 | ◎川上智志 冬木眞 大坂真理子 瀬谷智美 金子富美子 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 基礎分野 | 総合基礎① | 8 単位 120 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】
・社会学の学びを通じて、医療に従事する善き社会人として必要な教養を身につけること
・社会的事象に関心をもち調査研究をおこなう。多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養う。
・社会の一員であると再認識させ、人間としての在り方生き方についての自覚をより一層深めること
・柔道整復師として、理解しておかなければならない基礎的な社会保険の仕組みを理解する。
・公的年金制度、雇用保険制度、労災補償制度、生活困窮者自立支援制度の理解を深め、わが国における
セーフティーネットについて理解を深め、必要に応じて活用できる能力を育成する。

【講義概要】
現代社会のさまざまな諸問題に接し、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から
理解させるとともに社会とのかかわり方を考え、正しく行動がとれるように考察、議論、課題追究する
・社会保険については、公的な保険制度を中心に、各保険制度の目的や共通点、相違点を踏まえて全体像を理解する。
・公的年金制度、雇用保険制度、労災補償制度、生活困窮者自立支援制度については、事例課題を用いて、
具体的な制度活用方法や活用するための要件の理解を深める。

【成績評価方法】
定期試験(50%)
授業での参加度(30%)
授業中の課題提出(20%)
１００点満点で評価し６０点以上を合格とする
単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施する。

【授業の特徴・形式】
講義形式を基本とする
毎回、授業中に確認テスト等を行う
関連資料、動画視聴後、グループワークを行う

【教科書・参考書】
2024　ニュース検定　公式テキスト＆問題集　「時事力」基礎編　毎日新聞出版社
・単元ごとにプリントを配布

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 「社会学」の定義　コミュニティの重要性 | 講義 |
| 2 | リニア中央新幹線の経済効果と地域活性化、産業構造の見直し | 講義 |
| 3 | 南海トラフ巨大地震による我が国の経済、社会的損失 | 講義 |
| 4 | 平均寿命と少子高齢社会(2050年問題) | 講義 |
| 5 | 我が国の世界遺産、47都道府県の地域特性 | 講義 |
| 6 | 我が国の外交問題 | 講義 |
| 7 | 異常気象(災害基準見直し)がもたらす経済への影響 | 講義 |
| 8 | 若者たちのいま　少年法の見直し　18歳成人 | 講義 |
| 9 | わが国における社会保険制度の概要① | 講義 |
| 10 | わが国における社会保険制度の概要② | 講義 |
| 11 | 公的年金制度① | 講義 |
| 12 | 公的年金制度② | 講義 |
| 13 | 公的年金制度③ | 講義 |
| 14 | 雇用保険制度① | 講義 |
| 15 | 雇用保険制度② | 講義 |
| 16 | 雇用保険制度③ | 講義 |
| 17 | 労災補償制度① | 講義 |
| 18 | 労災補償制度② | 講義 |
| 19 | 労災補償制度③ | 講義 |
| 20 | 生活困窮者自立支援制度① | 講義 |
| 21 | 生活困窮者自立支援制度② | 講義 |
| 22 | まとめ・復習 | 講義 |
| 23 | まとめ・復習 | 講義 |
| 24 | 東京柔道整復専門学校の学生は知っていて欲しいこと(国語的観点)・DiSC理論【導入編】 | 講義 |
| 25 | DiSC理論【結果編】 | 講義 |
| 26 | 敬語の使い方 | 講義 |
| 27 | 文章の書き方(お礼状、メール、履歴書、その他)① | 講義 |
| 28 | 文章の書き方(お礼状、メール、履歴書、その他)② | 講義 |
| 29 | 文章の書き方(お礼状、メール、履歴書、その他)③ | 講義 |
| 30 | 接遇について① | 講義 |
| 31 | 接遇について② | 講義 |
| 32 | 生体を構成する物質　p20～p23 | 講義 |
| 33 | 細胞の構造と構成成分　p24～p27、p30～p32、p42～p43 | 講義 |
| 34 | 細胞と遺伝子　p74～p75、p82～p83、p84～p85 | 講義 |
| 35 | 消化と吸収(1)　(消化のしくみ・酵素反応のしくみ)p48～p51、p172 | 講義 |
| 36 | 消化と吸収(2)　(吸収のしくみ・肝臓のはたらき・血液の組成導入)p169、p173 | 講義 |
| 37 | 血液の組成と機能(1)　(赤血球のはたらき)p165、p167 | 講義 |
| 38 | 血液の組成と機能(2)　(血液循環)p166 | 講義 |
| 39 | 血液の組成と機能(3)　(免疫)p174～p185 | 講義 |
| 40 | 血液の組成と機能(4)　(血液凝固・恒常性導入)p168 | 講義 |
| 41 | 恒常性の維持(1)　(腎臓の構造と機能)p170～p171 | 講義 |
| 42 | 恒常性の維持(2)　(ホルモン)p160～p164 | 講義 |
| 43 | 恒常性の維持(3)　(自律神経)p158～p159 | 講義 |
| 44 | 神経系(生理学導入)p193～p198 | 講義 |
| 45 | まとめ(試験対策) | 講義 |
| 46 | 運動が生体に与える影響 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 47 運動とエネルギー代謝 | 講義 |
| 48 運動と骨・筋肉 | 講義 |
| 49 運動と呼吸・循環 | 講義 |
| 50 運動とホルモン | 講義 |
| 51 外傷の発生要因 | 講義 |
| 52 外傷の予防対策 | 講義 |
| 53 メディカルチェック～評価と測定 | 講義 |
| 54 外傷予防に必要なコンディショニングの方法 | 講義 |
| 55 柔道における肩関節の外傷予防 | 講義 |
| 56 水泳における体幹の傷害予防 | 講義 |
| 57 バスケットボールにおける膝関節の外傷予防 | 講義 |
| 58 サッカーにおける足関節の外傷予防 | 講義 |
| 59 成長期の外傷予防 | 講義 |
| 60 高齢者の外傷予防 | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1期 | 川上　智志 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 基礎柔道整復学① | 2 単位 | 60 時間 |

【授業の到達目標およびテーマ】

・骨の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。
・骨折の発生機序と損傷形態との関係を解析する。
・各論に基礎となる骨折に関わる様々な分類ついて理解する。
・骨折の治癒過程および治癒に対する影響因子との関係を学習する。

【講義概要】

・骨折の分類を理解し説明できる。
・骨折の症状を理解することができる。
・骨折の合併症、後遺症を理解することができる。
・骨折の治癒機転を理解し説明できる。

【成績評価方法】

・定期試験および講義への関心、意欲、取り組み方、講義内で実施する課題により総合的に評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない学生に対しては、補習の実施または、課題提出を実施した後に、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

・柔道整復学　理論編（改定第7版）　　南江堂

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 人体に加わる力について・損傷時に加わる力について P12～15 | 講義 |
| 2 | 骨の形態と機能・骨折の定義 P20～23 | 講義 |
| 3 | 骨の性状による分類 P23～24 | 講義 |
| 4 | 骨損傷の程度による分類 P24～25 | 講義 |
| 5 | 骨折線の方向・数による分類 P25～26 | 講義 |
| 6 | 骨折部と創部の交通の有無に分類・外力の働いた部位・働き方による分類 P26～29 | 講義 |
| 7 | 骨折の部位・経過による分類 P29～31 | 講義 |
| 8 | 骨折時の一般外傷症状 P31～32 | 講義 |
| 9 | 骨折時の一般外傷症状 P31～32 | 講義 |
| 10 | 骨折時の固有症状 P32～33 | 講義 |
| 11 | 骨折時の固有症状 P32～33 | 講義 |
| 12 | 骨折時の全身症状 P34 | 講義 |
| 13 | 骨折時の併発症 P34～35 | 講義 |
| 14 | 骨折時の併発症 P34～35 | 講義 |
| 15 | 骨折時の続発症 P35～36 | 講義 |
| 16 | 骨折時の続発症 P35～36 | 講義 |
| 17 | 骨折時の後遺症 P36～39 | 講義 |
| 18 | 骨折時の後遺症 P36～39 | 講義 |
| 19 | 小児骨折の特徴 P39～41 | 講義 |
| 20 | 小児骨折の特徴 P39～41 | 講義 |
| 21 | 高齢者骨折の特徴 P41～42 | 講義 |
| 22 | 高齢者骨折の特徴 P41～42 | 講義 |
| 23 | 骨折の癒合日数・骨折の治癒経過 P42～45 | 講義 |
| 24 | 骨折の予後 P45～46 | 講義 |
| 25 | 痛みの基礎 P16～19 | 講義 |
| 26 | 柔道整復・柔道整復師の沿革・柔道整復師の業務範囲と心得 P2～10 | 講義 |
| 27 | まとめ・復習 | 講義 |
| 28 | まとめ・復習 | 講義 |
| 29 | まとめ・復習 | 講義 |
| 30 | まとめ・復習 | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1期 | 福岡 孝俊 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 基礎柔道整復学② | 1 単位 30 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

関節部の構造、機能を理解し、各組織の特徴や損傷の種類・程度を学び、学んだ知識が解剖学や柔整各論に
結びつくように学習する。

【講義概要】

プリントを主体とし、理解を深めやすいように絵図を描いたり、画像や動画を交えて進めていく。

【成績評価方法】

・定期試験【100%】にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(不合格)生徒には、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。
・穴埋め式プリントを配布し、スクリーンを中心に進めていく。
・毎回、授業の最初に前回講義分の確認テストを行い復習する。

【教科書・参考書】

・柔道整復学(理論編)

【 講義の内容･日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 総論･各組織の損傷　関節の構造と機能　P46～50 | 講義 |
| 2 | 総論･各組織の損傷　関節部損傷　P50～52 | 講義 |
| 3 | 総論･各組織の損傷　脱臼　P52～59 | 講義 |
| 4 | 総論･各組織の損傷　脱臼　P52～59 | 講義 |
| 5 | 総論･各組織の損傷　脱臼　P52～59 | 講義 |
| 6 | 総論･各組織の損傷　関節構成組織損傷　P59～64 | 講義 |
| 7 | 総論･各組織の損傷　関節構成組織損傷　P59～64 | 講義 |
| 8 | 総論･各組織の損傷　筋の損傷　P64～71 | 講義 |
| 9 | 総論･各組織の損傷　筋の損傷　P64～71 | 講義 |
| 10 | 総論･各組織の損傷　腱の損傷　P71～76 | 講義 |
| 11 | 総論･各組織の損傷　腱の損傷　P71～76 | 講義 |
| 12 | 総論･各組織の損傷　末梢神経の損傷　P76～82 | 講義 |
| 13 | 総論･各組織の損傷　末梢神経の損傷　P76～82 | 講義 |
| 14 | 総論･各組織の損傷　1回～13回までの総復習 | 講義 |
| 15 | 定期試験解説 | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1期 | 大林典弘 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 基礎柔道整復学③ | 1 単位 30 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

・1年次は柔道整復学の基礎総論と基礎医学(解剖学・生理学)を中心に学びを進める。そのため本講義では人体の構造と機能の観点から柔道整復学を理解し考察できる能力を身につける。また上級学年での柔道整復各論に速やかに移行できるように配慮しながら学習を進める。☒

【講義概要】

・柔道整復師は患者に施術行為を行うため、施術行為による効果やどのような現象が体の中で起こっているのかを理解して患者に説明する必要がある。人体の構造と機能を元に患者にわかりやすく伝えられるようになるために、基本的な事項を着実に習得してもらいたい。

【成績評価方法】

・評価の観点は　1)授業の理解と表現　2)知識の浸透度と理解度

・授業内試験、小テストの成績70%、履修状況(課題、レポートの提出、授業への積極的な参加、グループワークでの発表など)30％で評価する。

・授業内試験、小テスト、課題、レポート等について、授業時間を用いて講評・解説を行う。

・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。

・単位取得に満たない(60点未満)生徒には課題提出等をもとめる場合がある。

・授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者について10％の範囲内で減点法にて評価する。

※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

【授業の特徴・形式】

・配布資料と教科書を中心に授業展開します。

●履修にあたっての留意点

1．覚えるべき医療用語がとても多く、１講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。
　　欠席することの無いように体調管理には充分配慮すること。

2．授業で使用する模型等は大切に取り扱うこと。

3．授業時間内で理解できなかった箇所、疑問点はそのままにせず早めに解決すること。
　　図書室などを利用し専門書にて理解度を深めてください。教員への質問は歓迎します。

※授業の進度によって内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【教科書・参考書】

・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版　南江堂

・全国柔道整復学校協会監修「解剖学」改訂第2版　医歯薬出版

・全国柔道整復学校協会監修「生理学」改訂第4版　南江堂

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業の進め方・概要について）<br>運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する①<br>事後学習(復習):シラバスを見直すこと | 講義 |
| 2 | 運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する②<br>事前学習(予習):解剖学の教科書を用いて運動器について予習する<br>事後学習(復習):配布資料を見直すこと | 講義 |
| 3 | 運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する③<br>事前学習:解剖学の教科書を用いて循環器について予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 4 | 運動器損傷に関わる人体構造の名称、医学用語を理解する④<br>事前学習:解剖学の教科書を用いて循環器について予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 5 | 柔道整復師を知る①（柔道整復師に関する実務を理解し将来の目標を定める）<br>事前学習:柔道整復師の業務について調べておくこと<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 6 | 柔道整復師を知る②（柔道整復師に関する実務を理解し将来の目標を定める）<br>事前学習:柔道整復師の業務について調べておくこと<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 7 | 復習1(第1回～第6回の復習を目的とする)<br>事前学習:第1回～第6回の配布資料を再読すること<br>事後学習:配布資料を見直すこと<br>小テスト(第1～6回講義分) | 講義 |
| 8 | 運動器損傷の合併症に関わる人体構造と機能を理解する①<br>事前学習:生理学の教科書を用いて血液について予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 9 | 運動器損傷の合併症に関わる人体構造と機能を理解する②<br>事前学習:生理学の教科書を用いて血液について予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 10 | 運動器損傷の合併症に関わる人体構造と機能を理解する③<br>事前学習:生理学の教科書を用いて循環について予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 11 | 運動器損傷の合併症に関わる人体構造と機能を理解する④<br>事前学習:生理学の教科書を用いて循環について予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 12 | 運動器損傷（骨折、脱臼、捻挫、挫傷）の症状、分類を理解する①<br>事前学習:柔道整復学の教科書を用いて予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 13 | 運動器損傷（骨折、脱臼、捻挫、挫傷）の症状、分類を理解する②<br>事前学習:柔道整復学の教科書を用いて予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |
| 14 | 運動器損傷（骨折、脱臼、捻挫、挫傷）の症状、分類を理解する③<br>事前学習:柔道整復学の教科書を用いて予習する<br>事後学習:配布資料を見直すこと<br>小テスト(第8～13回講義分) | 講義 |
| 15 | 復習2および総括(第1回～第14回の復習を目的とする)<br>事前学習:第1回～第14回の配布資料を再読すること<br>事後学習:配布資料を見直すこと | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース（3年制） | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024　年度 | 1年生　第1期、2期 | 梅本　彰吾 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 基礎柔道整復学④ | 2　単位　60　時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】
・医療としての基本的診察の概説を学び、治療計画を作成する。
・柔道整復師が行う治療法全般の基礎を理解し、個々の症例に応用できる治療計画を作成する能力を学ぶ。

【講義概要】
・診察　注意点・手順・病歴聴取・身体診察の流れ・時期の分類・治療計画作成・施術録の取扱いと記載方法
・治療法　整復法・固定法・後療法・指導管理

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】
・座学及び実技
・授業プリントを使用し、試験範囲とする。

【教科書・参考書】
・授業プリント主体
・柔道整復学理論編
・柔道整復学実技編

| 【 講義の内容･日程 】 | | | |
|---|---|---|---|
| 回 | 講義内容 | | 備考 |
| 1 | 診察時の注意点・診察手順の概説 | | 講義 |
| 2 | 診察時期の分類・治療計画の作成・施術録の取扱いと記載 | | 講義 |
| 3 | 徒手整復施行時の配慮 | | 講義 |
| 4 | 骨折の整復法 | | 講義 |
| 5 | 脱臼の整復法・徒手整復後の確認と配慮 | | 講義 |
| 6 | 軟部組織損傷の初期処置 | | 講義 |
| 7 | 固定施行時の配慮 | | 講義 |
| 8 | 固定後の配慮 | | 講義 |
| 9 | 固定具 | | 講義 |
| 10 | 概論～手技療法 | | 講義 |
| 11 | 運動療法 | | 講義 |
| 12 | 運動療法の種類 | | 講義 |
| 13 | 演習 | | 講義 |
| 14 | 演習 | | 講義 |
| 15 | 試験解説 | | 講義 |
| 16 | 物理療法（概論） | | 講義 |
| 17 | 寒冷療法 | | 講義 |
| 18 | 伝導熱療法 | | 講義 |
| 19 | 輻射熱療法・変換熱療法 | | 講義 |
| 20 | 超音波療法 | | 講義 |
| 21 | 光線療法 | | 講義 |
| 22 | 電気療法 | | 講義 |
| 23 | 電気療法 | | 講義 |
| 24 | 牽引療法 | | 講義 |
| 25 | 概論・日常生活動作、環境の指導管理 | | 講義 |
| 26 | 住宅環境・就労・就学・スポーツ活動の指導管理 | | 講義 |
| 27 | 演習 | | 講義 |
| 28 | 演習 | | 講義 |
| 29 | 総復習 | | 講義 |
| 30 | 試験解説 | | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース（3年制） | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 2年生 第1期、2期 | 菊地 正 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 基礎柔整学⑤ | 1 単位 | 30 時間 |

【授業の到達目標およびテーマ】
・上肢脱臼を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。
・各脱臼を理論的、実践的に学び、臨床現場に活用できる知識と技術を習得する。

【講義概要】
・骨模型や立体図を使用し骨折を立体的に理解するよう進めていく。
・演習にて実践的に学び、術者と患者の立場になり学べるように進めていく。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・60点に満たない生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施することがある。
・授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、
不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。

【授業の特徴・形式】
・実技形式を基本とする。
・教科書を中心に、補足資料を配布してすすめていく。

【教科書・参考書】
・柔道整復学 理論編（第7版）

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 肩関節周囲の解剖(肩鎖関節・肩関節) | 講義 |
| 2 | 鎖骨の脱臼 胸鎖関節 P,300 | 講義 |
| 3 | 鎖骨の脱臼 肩鎖関節 P,301～302 | 講義 |
| 4 | 肩関節脱臼 発生機序・分類 P,303 | 講義 |
| 5 | 肩関節脱臼 前方脱臼 P,303～307 | 講義 |
| 6 | 肩関節脱臼 後方脱臼 P,307～310 | 講義 |
| 7 | 肩関節脱臼 復習 | 講義 |
| 8 | 肘周囲の解剖 | 講義 |
| 9 | 肘関節脱臼 分類 P,310 | 講義 |
| 10 | 肘関節脱臼 前腕両骨脱臼・肘内障 P,310～315 | 講義 |
| 11 | 手関節周囲の解剖 | 講義 |
| 12 | 手関節部の脱臼・手根中手関節の脱臼 P,315～319 | 講義 |
| 13 | 中手指節関節の脱臼・指節間関節の脱臼 P,319～324 | 講義 |
| 14 | 総復習(演習:肩関節脱臼) | 講義 |
| 15 | 総復習(演習:肘関節脱臼) | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1期 | 初森 裕隆 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 柔道整復実技① | 1 単位 30 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

柔道整復師として欠かせない包帯の技術。
日常の患者さんへの治療、災害時の包帯技術は我々の大きな武器になります。
授業中はもちろん授業外でも包帯に触れ、繰り返し練習し技術の習得に努めましょう。

【講義概要】

・固定の意味や役割の理解
・包帯の巻き方や巻き順、種類の理解
・各関節の巻き方の理解
・基本包帯の応用技術の習得

【成績評価方法】

実技試験にて評価
単位取得に満たない（不合格）者には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。
１００点満点で評価し、６０点以上で合格とする。

※特別な理由なく３回以上欠席した者は授業内試験の受験を認めない。

【授業の特徴・形式】

授業は第二校舎で行う。
授業開始前までに白衣に着替え、自分の包帯を持参のうえ、授業に臨むこと。

【教科書・参考書】

・柔道整復学　理論編
・包帯固定学

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 固定法概論 | 実技 |
| 2 | 包帯の取り扱いや名称 | 実技 |
| 3 | 包帯巻き戻し | 実技 |
| 4 | 関節の動き | 実技 |
| 5 | 環行帯・螺旋帯・蛇行帯 | 実技 |
| 6 | 折転帯・亀甲帯 | 実技 |
| 7 | 麦穂帯 | 実技 |
| 8 | 手関節～肘関節までの基本包帯 | 実技 |
| 9 | 肩関節上行麦穂帯 | 実技 |
| 10 | 肩関節下行麦穂帯 | 実技 |
| 11 | 股関節上行麦穂帯 | 実技 |
| 12 | 股関節下行麦穂帯 | 実技 |
| 13 | 足関節麦穂帯 | 実技 |
| 14 | 足関節亀甲帯 | 実技 |
| 15 | 復習 | 実技 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース（3年制） | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第2期 | 初森 裕隆 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 柔道整復実技② | 1 単位 30 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

柔道整復術の治療法の一つである「固定法」

患者さんを治癒に導くための方法を理解し実践できるようにする。

【講義概要】

・各種サポーターの種類や適応の理解

・テーピングの巻き方や巻き順、種類の理解

・基本包帯の応用技術の習得

【成績評価方法】

実技試験にて評価

単位取得に満たない（不合格）者には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

１００点満点で評価し、６０点以上で合格とする。

※特別な理由なく３回以上欠席した者は授業内試験の受験を認めない。

【授業の特徴・形式】

授業は第二校舎で行う。

授業開始前までに白衣に着替え、授業に臨むこと。

【教科書・参考書】

**・包帯固定学**

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 各種サポーター | 実技 |
| 2 | 各種サポーター | 実技 |
| 3 | 各種サポーター | 実技 |
| 4 | テーピング | 実技 |
| 5 | テーピング | 実技 |
| 6 | 三角巾、さらし、固定具 | 実技 |
| 7 | 運動療法 | 実技 |
| 8 | 運動療法 | 実技 |
| 9 | 鎖骨の包帯（デゾー・ヴェルポー・ジュール） | 実技 |
| 10 | 鎖骨の包帯（デゾー・ヴェルポー・ジュール） | 実技 |
| 11 | 鎖骨の包帯（デゾー・ヴェルポー・ジュール） | 実技 |
| 12 | 鎖骨の包帯（デゾー・ヴェルポー・ジュール） | 実技 |
| 13 | 鎖骨の包帯（デゾー・ヴェルポー・ジュール） | 実技 |
| 14 | 総復習 | 実技 |
| 15 | 総復習 | 実技 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第2期、3期 | ◎福岡 孝俊 ○初森 裕隆 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 柔道整復実技③ | 2 単位 60 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

各軟部組織損傷の特徴から治療法までの知識を習得し、柔道整復師として臨床上必要な技術を学ぶ。

【講義概要】

プリントを主体とし、臨床を通して理解を深められるよう実技を交えて進めていく。

【成績評価方法】

・定期試験【100%】にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(不合格)生徒には、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。
・穴埋め式プリントを配布し、スクリーンを中心に進めていく。
・毎回、授業の最初に前回講義分の確認テストを行い復習する。

【教科書・参考書】

・柔道整復学(理論編)
・柔道整復学(実技編)

【 講義の内容･日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 各論　軟部組織損傷　股関節の軟部組織損傷　P380～383 | 実技 |
| 2 | 各論　軟部組織損傷　大腿部の軟部組織損傷　P383～386 | 実技 |
| 3 | 各論　軟部組織損傷　大腿部の軟部組織損傷 | 実技 |
| 4 | 各論　軟部組織損傷　膝関節部の軟部組織損傷　P386～394 | 実技 |
| 5 | 各論　軟部組織損傷　膝関節部の軟部組織損傷　P386～394 | 実技 |
| 6 | 各論　軟部組織損傷　膝関節部の軟部組織損傷 | 実技 |
| 7 | 各論　軟部組織損傷　下腿部の軟部組織損傷　P394～396 | 実技 |
| 8 | 各論　軟部組織損傷　下腿部の軟部組織損傷 | 実技 |
| 9 | 各論　軟部組織損傷　足関節部の軟部組織損傷　P396～402 | 実技 |
| 10 | 各論　軟部組織損傷　足関節部の軟部組織損傷　P396～402 | 実技 |
| 11 | 各論　軟部組織損傷　足関節部の軟部組織損傷 | 実技 |
| 12 | 各論　軟部組織損傷　足･趾部の軟部組織損傷　P402～406 | 実技 |
| 13 | 各論　軟部組織損傷　足･趾部の軟部組織損傷 | 実技 |
| 14 | 下肢軟部組織の総復習 | 実技 |
| 15 | 定期試験解説 | 実技 |
| 16 | 各論　軟部組織損傷　頭部･顔面部の軟部組織損傷　P337～339 | 実技 |
| 17 | 各論　軟部組織損傷　頸部の軟部組織損傷　P339～342 | 実技 |
| 18 | 各論　軟部組織損傷　胸･背部の軟部組織損傷　P342～345 | 実技 |
| 19 | 各論　軟部組織損傷　腰部の軟部組織損傷　P345～349 | 実技 |
| 20 | 各論　軟部組織損傷　肩関節部の軟部組織損傷　P350～360 | 実技 |
| 21 | 各論　軟部組織損傷　肩関節部の軟部組織損傷　P350～360 | 実技 |
| 22 | 各論　軟部組織損傷　上腕部の軟部組織損傷　P360～361 | 実技 |
| 23 | 各論　軟部組織損傷　肘関節部の軟部組織損傷　P361～365 | 実技 |
| 24 | 各論　軟部組織損傷　前腕部の軟部組織損傷　P365～369 | 実技 |
| 25 | 各論　軟部組織損傷　前腕部の軟部組織損傷 | 実技 |
| 26 | 各論　軟部組織損傷　手部･指部の軟部組織損傷　P373～379 | 実技 |
| 27 | 各論　軟部組織損傷　手部･指部の軟部組織損傷 | 実技 |
| 28 | 頭部･体幹軟部組織損傷の総復習 | 実技 |
| 29 | 上肢軟部組織損傷の総復習 | 実技 |
| 30 | 定期試験解説 | 実技 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第3期 | ◎川上智志 井口良平 梅本彰吾 吉田晋 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 基礎柔道整復学特講 | 3 単位 90 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる頭部、体幹部、肩甲帯部、上腕部の損傷を学習し必要となる知識を習得する。

・１学年で習得した柔道整復学の内容を総合的、発展的に学習する。

【講義概要】

・各部の損傷に対して発生機序、症状、合併症、予後に関して詳細に理解し、損傷部位や程度等の判断や他損傷との鑑別ができるようにする。

・各部の損傷に対して整復や固定法など適切な、治療法を実践できるようにする。

・発展的、総合的な学習を通して１学年で学んだ柔道整復学の復習を行う。

【成績評価方法】

・定期試験および講義への関心、意欲、取り組み方、講義内で実施する課題により総合的に評価する。

・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

・単位取得に満たない学生に対しては、補習の実施または、課題提出を実施した後に、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

・柔道整復学　理論編　　南江堂

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 頭部、顔面部の骨折① P148～152 | 講義 |
| 2 | 頭部、顔面部の骨折② P148～152 | 講義 |
| 3 | 頚椎の骨折① P153～158 | 講義 |
| 4 | 頚椎の骨折② P153～158 | 講義 |
| 5 | 胸椎の骨折① P159～163 | 講義 |
| 6 | 胸椎の骨折② P159～163 | 講義 |
| 7 | 腰椎の骨折① P164～166 | 講義 |
| 8 | 腰椎の骨折② P164～166 | 講義 |
| 9 | 鎖骨骨折(概説・症状)P.174 | 講義 |
| 10 | 鎖骨骨折(整復法・固定法) P.175-177 | 講義 |
| 11 | 鎖骨骨折(合併症)肩甲骨骨折(概説)P.178-179 | 講義 |
| 12 | 肩甲骨骨折(部位別各論)P.179-180・肋骨骨折(概説) | 講義 |
| 13 | 肋骨骨折(発生機序・症状)P.167-168 | 講義 |
| 14 | 肋骨骨折(合併症・予後)P.169-170 | 講義 |
| 15 | 胸骨骨折 P.172-173 | 講義 |
| 16 | 体幹部、肩甲体部骨折の総復習 | 講義 |
| 17 | 上腕骨骨折概要・分類・解剖 P181 | 講義 |
| 18 | 骨頭骨折・解剖頚骨折(症状・整復法・固定法)P181～183 | 講義 |
| 19 | 上腕骨外科頚骨折(概要・症状) P183～186 | 講義 |
| 20 | 上腕骨外科頚骨折(整復法) P183～186 | 講義 |
| 21 | 大結節・小結節単独骨折・近位骨端線離開 P186～187 | 講義 |
| 22 | 上腕骨骨幹部骨折(概要・症状) P188～192 | 講義 |
| 23 | 上腕骨骨幹部骨折(整復法) P188～192 | 講義 |
| 24 | 上腕骨遠位端部骨折概要・分類・解剖 | 講義 |
| 25 | 上腕骨顆上骨折(概要・症状) P194～199 | 講義 |
| 26 | 上腕骨顆上骨折(整復法) P194～199 | 講義 |
| 27 | 上腕骨外顆骨折(概要・症状・整復法) P200～201 | 講義 |
| 28 | 上腕骨内側上顆骨折(概要・症状・整復法) P201～203 | 講義 |
| 29 | 上腕骨近位端部骨折固定法 | 講義 |
| 30 | 上腕骨骨幹部骨折固定法 | 講義 |
| 31 | 上腕骨遠位端部骨折固定法 | 講義 |
| 32 | 上腕部骨折の総復習 | 講義 |
| 33 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 34 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 35 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 36 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 37 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 38 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 39 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 40 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 41 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 42 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 43 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 44 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 45 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 46 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 47 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |
| 48 | 各部損傷に関する総合的、発展的学習 | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 昼間部(午後) |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第3期 | 菊地 正 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 物理療法機器の取り扱い | 1 単位 15 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】
・物理療法機器の取り扱いを知識を絡めて体系的に理解する。
・物理療法の効能や禁忌などを学ぶことにより、臨床現場に活用できる知識を習得する。

【講義概要】
・柔道整復師の活動する現場では、物理療法機器を用いて治療を行うことが多い。実際の物理療法機器を用いて実践的に理解できるよう進めていく。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・60点に満たない生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施することがある。
・授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、
不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。
・教科書を中心に、補足資料を配布してすすめていく。

【教科書・参考書】
・柔道整復学 理論編（第7版）

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 物理療法総論　　教科書 P. 109 | 講義 |
| 2 | 分類・安全対策　教科書 P. 109～110 | 講義 |
| 3 | 主要な物理療法（電気療法）　教科書 P. 110～114 | 講義 |
| 4 | 主要な物理療法（温熱療法）　教科書 P. 114～121 | 講義 |
| 5 | 主要な物理療法（光線療法・寒冷療法）　教科書 P. 122～127 | 講義 |
| 6 | 主要な物理療法（牽引療法・その他）　　教科書 P. 128～131 | 講義 |
| 7 | 総復習（電気療法・温熱療法・光線療法・寒冷療法・牽引療法・その他） | 講義 |
| 8 | 総復習（現場での物量機器の選択と使用についてのケーススタディ） | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース（3年制） | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024　年度 | 1年生　第1期、2期 | 西　健喜 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門基礎分野 | 解剖学① | 2　単位　60　時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

解剖学における筋骨格系を中心に講義を行う。骨格においては主に部位名称、筋においては筋名称、付着部位、関節への作用および支配神経を理解することを目標とする。各項における具体的目標を下記に示す。

・骨の構造について理解し、骨の連結（特に関節）についての分類と特徴を説明できる。
・骨の部位について、名称および特徴を図（または模型）を用いて説明できる。
・筋について、図を用いて筋名称、筋の付着部（起始・停止）の名称、関節への作用および支配神経を説明できる。

【講義概要】

解剖学骨格系および筋系についての講義を行う。主に前半で骨格系、後半に筋系について講義を行う。
・骨の構造の説明および骨の連結（特に関節）の分類と特徴を例をあげて説明を行う。
・全身の骨について図を用いて部位名称を説明する。また関節およびその他の特徴についても合わせて説明する。
・全身の筋について、図を用いて筋名称、筋の付着部（起始停止）名称、運動および支配神経について説明する。
骨の部位名は筋の付着（起始・停止）において必要となるため、1学期の内容は１学期中に理解できることを望む。
解剖学（筋骨格系）は柔整理論(骨折における転位など)に関わるため、講義ごと・学期内での理解が望ましい。
筋では名称に加え、付着部位（起始・停止）、支配神経も覚えるため、1学期よりも努力を要する。

【成績評価方法】

・定期試験70%、講義内試験20%、授業態度10％の総合判定を行う。
・授業態度10%は、居眠り、無関係な私語、電子機器操作などの不適切な授業態度について減算方式でおこなう。
・総合判定は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・合格点に満たない(60点未満)生徒には再試験および、課題等の提出を求める場合がある。

【授業の特徴・形式】

・講義形式にて行う。
・講義の始めに前回分（または数回分）の授業内の確認問題（講義内試験とは別）を行う場合がある。
・各講義ごとにプリント（要点穴埋め形式および筋骨格図）を配布する。プリントは教科書に沿って作成しており、教科書内容に沿って講義を進める。理解を深めるためには教科書を読むよう心がけてほしい。
・各範囲の重要事項（講義内容まとめ）をプリント末尾に問題形式にて記載している。解剖学（筋骨）は名称や用語などの記憶する内容が多く、講義中だけでは全てを覚えるのは難しい。復習が必須であるため、復習の参考にしていただきたい。
・講義内容は進捗状況で前後する場合がある。

【教科書・参考書】

教科書：解剖学　全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版

参考書：ネッター解剖学アトラス、プロメテウス解剖学アトラス

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション・解剖学総論(p1～2) | 講義 |
| 2 | 骨の役割、性状、構造(p21～) | 講義 |
| 3 | 骨の発生と成長、連結、関節(p25～) | 講義 |
| 4 | 脊柱(頸椎・胸椎・腰椎・仙骨)(p28～) | 講義 |
| 5 | 胸郭(胸骨、肋骨)、上肢骨、肩甲骨、鎖骨(p33～) | 講義 |
| 6 | 1学期　前半範囲復習(p1～2、p21～33) | 講義 |
| 7 | 1学期前半　まとめ　および　確認演習 | 演習 |
| 8 | 上腕骨、橈骨、尺骨、手の骨、関節(p38～) | 講義 |
| 9 | 下肢骨、寛骨、大腿骨(p47～) | 講義 |
| 10 | 下腿骨、足部の骨、下肢の関節(p52～) | 講義 |
| 11 | 脳頭蓋、顔面頭蓋(p59～) | 講義 |
| 12 | 頭蓋冠・底・側面・泉門、関節(p64～) | 講義 |
| 13 | 骨　後半範囲復習(p38～p69) | 講義 |
| 14 | 全身の関節(部位・形状・構成骨)復習 | 講義 |
| 15 | 定期テスト解説および復習 | 講義 |
| 16 | 筋総論、表情筋、咀嚼筋、頸部の筋(p70～) | 講義 |
| 17 | 浅・深胸筋・横隔膜・腹筋(p81～) | 講義 |
| 18 | 浅背筋・深背筋・脊柱起立筋(p88～) | 講義 |
| 19 | 上肢帯・上腕屈筋・上腕伸筋(p92～) | 講義 |
| 20 | 前腕屈筋(p97～) | 講義 |
| 21 | 前腕伸筋(p100～) | 講義 |
| 22 | 2学期　前半範囲復習(p70～p102) | 講義 |
| 23 | 2学期前半範囲　まとめ　および　確認演習 | 講義 |
| 24 | 手部の筋・内寛骨筋(p103～) | 講義 |
| 25 | 外寛骨筋・大腿伸筋(p108～) | 講義 |
| 26 | 大腿内転筋・屈筋・下腿伸筋(p112～) | 講義 |
| 27 | 下腿腓骨筋・屈筋(p114～) | 講義 |
| 28 | 2学期　後半範囲復習(p70～p122) | 講義 |
| 29 | 定期テスト解説および復習 | 講義 |
| 30 | 筋・骨格　総まとめ | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1期、2期 | 西 健喜 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門基礎分野 | 解剖学② | 2 単位 | 60 時間 |

【授業の到達目標およびテーマ】

解剖学における細胞と組織、脈管系、内臓系および内分泌系について、分類や構造、特徴および機能等を説明できることを目標とする。各項目における具体的目標を下記に示す。

・細胞および組織の分類と特徴を説明できる。
・心臓の構造（図）および機能を説明できる。また、動脈及び静脈の名称と走行（図）を説明できる。
・内臓器（消化器、呼吸器、泌尿器および生殖器）の構造（図）および機能が説明できる。
・内分泌器の構造、分泌されるホルモン名称およびその作用について説明できる。

【講義概要】

解剖学における内臓器系について講義を行う。
・細胞および組織については、人体を構成する単位であること、その分類と機能および特徴について説明する。
・脈管系の意義を説明するとともに、心臓の構造および機能、動脈および静脈の名称と走行について図解する。
・内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器および生殖器）臓器の構造および機能を図と共に説明する。
・内分泌系（ホルモン）の定義、内分泌器の構造、分泌されるホルモンおよびその作用について説明する。
解剖学は身体を理解する上で重要であり、他の科目を理解する上で必須となるため、頑張ってもらいたい。

【成績評価方法】

・定期試験70%、講義内試験20%、授業態度10％の総合判定を行う。
・授業態度10%は、居眠り、無関係な私語、電子機器操作などの不適切な授業態度について減算方式でおこなう。
・総合判定は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(60点未満)生徒には再試験を実施する。また、課題等の提出を求める場合がある。
・各期において出席回数が2/3（10回）以上に達しない場合は、当該科目の評価を受けることができない。

【授業の特徴・形式】

・講義形式にて行う。
・各講義ごとにプリント（要点穴埋め形式および理解に必要な図）を配布する。プリントは教科書に沿って作成されているため、教科書に沿って講義を進める。理解を深めるためには教科書を読むよう心がけてほしい。
・各範囲の重要事項（講義内容まとめ）をプリントの最後に問題形式にて記載している。解剖学（内臓器）は、理解が求められる内容に加え、覚えなければならない内容も多く、講義中だけで全てを覚えるのは難しい。事後学修が必須であるため参考にしていただきたい。

【教科書・参考書】

・解剖学　全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版

・イラスト解剖学（教科書が分かりにくい、難しい文章が苦手だと思う人はこちらを参考にすると良い。イラストを用いて内容がまとめられている）

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション・細胞（細胞内小器官）（p3～8） | 講義 |
| 2 | 組織（上皮組織、支持組織）（p8～13） | 講義 |
| 3 | 組織（筋組織）、発生、血管の構造（p13～16、p123～） | 講義 |
| 4 | 脈管系（心臓の構造）（p127～133） | 講義 |
| 5 | 動脈（大動脈、頭頸部、上肢）（p133～139） | 講義 |
| 6 | 動脈（胸腹部、大腿、下腿、足部）（p139～145） | 講義 |
| 7 | 1学期　前半範囲復習（p3～16、p123～145） | 講義 |
| 8 | 1学期前半　まとめ　および　確認演習 | 演習 |
| 9 | 静脈系（p145～150） | 講義 |
| 10 | 胎児循環・リンパ系（p152～156） | 講義 |
| 11 | 消化器総論、口腔（p157～163） | 講義 |
| 12 | 消化器（咽頭・食道・胃）（p163～167） | 講義 |
| 13 | 消化器（小腸、大腸）（p167～171） | 講義 |
| 14 | 1学期範囲　後半範囲復習 | 講義 |
| 15 | 定期試験解説および復習 | 講義 |
| 16 | 消化器（肝臓）（p171～174） | 講義 |
| 17 | 消化器（胆嚢、膵臓、腹膜）（p174～177） | 講義 |
| 18 | 呼吸器（鼻腔、咽頭、喉頭）（p177～181） | 講義 |
| 19 | 呼吸器（気管、気管支、肺、縦隔）（p181～186） | 講義 |
| 20 | 2学期　前半範囲復習 | 講義 |
| 21 | 2学期前半　まとめ　および　確認演習 | 演習 |
| 22 | 泌尿器（腎臓、尿管、膀胱、尿道）（p186～192） | 講義 |
| 23 | 生殖器（男性生殖器）（p192～197） | 講義 |
| 24 | 生殖器（女性生殖器）（p197～205） | 講義 |
| 25 | 内分泌器（視床下部、下垂体、松果体）（p207～210） | 講義 |
| 26 | 内分泌器（甲状腺、副腎、膵臓、性腺）（p211～p215） | 講義 |
| 27 | 2後期　後半範囲復習 | 講義 |
| 28 | 内臓器　総復習（総論～脈管） | 講義 |
| 29 | 内臓器　総復習（消化器～内分泌） | 講義 |
| 30 | 定期試験解説および復習 | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1・2・3期 | 人間総合科学大学 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 基礎分野 | 総合基礎通信 | 4 単位 60 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師としてだけでなく、社会人として必要な教養を身につけることを目的とする。
・通常授業では接する機会が少ない項目に触れ、多方面での応用が利くようにする。

【講義概要】
▶生活習慣と健康
・健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識することを目的とする。
・生活習慣病、メタボリックシンドローム、アルコール、喫煙の健康影響について学び、生活と健康習慣の関係及び運動の意義と効果について、身体的、社会的な視点から説明できるようにする。
▶コニュニケーション入門
・医療、福祉の現場に限らず、コミュニケーション全般についてその概要を理解することと目的とする。
・コミュニケーションの一般的な理解を深め、その一部分として慰労、福祉分野におけるコミュニケーションも学ぶ。
・医療面接を学ぶ際の基礎知識として役立てるようにする。

【成績評価方法】
・人間総合科学大学が定めた時期に試験を実施し評価する。
・人間総合科学大学にて指定された課題を実施し、試験前に学習の確認を実施する。
・人間総合科学大学が作成した試験の結果にて、ＡＢＣ評価で判定する。（Ｃは不合格）

【授業の特徴・形式】
・人間総合科学大学による自宅での学習。

【教員紹介】
学校法人　早稲田医療学園　人間総合科学大学　人間科学部　心身健康科学科（通信制）
文部科学省認可通信教育課程
平成30年4月から施行された柔道整復師養成

【教科書・参考書】
・生活習慣と健康　　人間総合科学大学
・医療、福祉現場のコミュニケーション　　三輪書店

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 実施日 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | | | |
| 2 | 6月 | テキスト、課題配布 | |
| 3 | | 以後、自宅にて学習する。 | |
| 4 | 7月 | 課題提出 | |
| 5 | 9月 | 試験を実施 | |
| 6 | | ※試験にて合格点に達しない場合は上記の内容をやり直す。 | |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース（3年制） | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024　年度 | 1年生　第1期、2期 | 坪井　美行 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門基礎分野 | 生理学① | 2　単位　60　時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】
・循環、呼吸などの生きていくために必須のシステムが説明できる。
・内分泌など体の調子を整えるシステムが説明できる。
・栄養の摂取、消化、代謝、体温調節の機構が説明できる。

【講義概要】
生理学は、我々の体がどのようなメカニズムで活動し、制御されているのかを勉強する学問です。学んだ知識は自分の生活に当てはめて、振り返ってください。１年生第1期では、細胞の構造と機能、循環、呼吸、排泄、2学期では栄養、消化、エネルギー代謝、体温調節、内分泌機能について学ぶ。授業中に問題を出し、理解を深めていきます。難しい単語や聞いたこともない言葉が数多く出てくるので、しっかり復習して単語の意味を理解し覚えてください。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(不合格)生徒には、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・生理学　改訂第4版　公益社団法人　全国柔道整復学校協会　監修
・カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 第4版　日本医事新報社

【 講義の内容・日程 】

| 回 | | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/9 | 火 ・細胞の生理：細胞の機能と構造 P1～5 | 講義 |
| 2 | 4/16 | 火 ・細胞の生理：組織・生体の恒常性・体液 P5～10 | 講義 |
| 3 | 4/23 | 火 ・血液：血液の成分 P115～119 | 講義 |
| 4 | 5/7 | 火 ・血液：血液の機能（止血、血液型） P119～127 | 講義 |
| 5 | 5/14 | 火 ・血液：血液の機能（免疫機能 ） P119～128 | 講義 |
| 6 | 5/21 | 火 ・循環：心臓（構造、心臓の電気的活動、心電図） P139～145 | 講義 |
| 7 | 5/28 | 火 ・循環：血管とリンパ系 P145～153 | 講義 |
| 8 | 6/4 | 火 ・循環：循環調節 P153～157 | 講義 |
| 9 | 6/11 | 火 ・呼吸：呼吸器の構造 P159～164 | 講義 |
| 10 | 6/18 | 火 ・呼吸：換気とガス交換気とガス交換 P164～168 | 講義 |
| 11 | 6/25 | 火 ・呼吸：呼吸周期の調節 P168～170 | 講義 |
| 12 | 7/2 | 火 ・排泄：腎臓の構造と機能 P171～177 | 講義 |
| 13 | 7/9 | 火 ・排泄：腎血流量と排泄 P177～180 | 講義 |
| 14 | 7/16 | 火 ・排泄：腎臓の尿生成以外の働き P180～182 | 講義 |
| 15 | 7/30 | 火 ・定期試験 解説 | 講義 |
| 16 | 8/27 | 火 ・栄養と代謝：生体に必要な栄養素 P183～189 | 講義 |
| 17 | 9/3 | 火 ・栄養と代謝：エネルギー代謝エネルギー代謝 P189～191 | 講義 |
| 18 | 9/10 | 火 ・栄養と代謝：栄養の代謝 P192～195 | 講義 |
| 19 | 9/17 | 火 ・消化と吸収：消化器系の構成とはたらき P197～02 | 講義 |
| 20 | 9/24 | 火 ・消化と吸収：栄養素の消化機構 P202～210 | 講義 |
| 21 | 10/1 | 火 ・消化と吸収：栄養素の吸収機構 P210～214 | 講義 |
| 22 | 10/8 | 火 ・体温：熱産生と熱放散 P215～220 | 講義 |
| 23 | 10/15 | 火 ・体温：発熱とうつ熱 P220～222 | 講義 |
| 24 | 10/22 | 火 ・内分泌：細胞間の情報伝達とホルモンの種類 P83～86 | 講義 |
| 25 | 10/29 | 火 ・内分泌：ホルモンの分泌調節機構と作用機序 P86～90 | 講義 |
| 26 | 11/5 | 火 ・内分泌：視床下部ホルモンと下垂体ホルモン P90～92 | 講義 |
| 27 | 11/12 | 火 ・内分泌：甲状腺と副甲状腺のホルモン P93～94 | 講義 |
| 28 | 11/19 | 火 ・内分泌：副腎、腎臓、膵臓、精巣、卵巣のホルモン P94～99 | 講義 |
| 29 | 11/26 | 火 ・内分泌：ホルモンによる内部環境の恒常性維持 P99～101 | 講義 |
| 30 | 12/10 | 火 ・定期試験 解説 | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第3期 | 煙山 奨也 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門基礎分野 | 職業倫理 | 1 単位 15 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】
職業としての柔道整復の倫理とは何かを考え，信頼させる医療人となるための基礎知識について，社会で話題となっているテーマを取り上げながら幅広い目線，考え方を身につけることを目標とする．
柔道整復師という国家資格を有して，職業に就くことについて再考し，職業としての柔道整復師を説明できる．
また柔道整復師が現場で経験するであろう安全管理等に関する知識を身につける．

【講義概要】
職場の安全管理や医療従事者の倫理等をテーマに学ぶ。
柔道整復師としての倫理を踏まえ、医療者としてのコミュニケーションをテーマに医療者－患者関係の構築についても学ぶ。
また，柔道整復師という国家資格を有して，職業に就くことについて再考する。

【成績評価方法】
原則、定期試験にて評価する。

授業とは関係のない私語，電子機器の操作，無断の入退室など，不適切な授業態度がみられる者、
小テストについて10%の範囲内で減点法にて評価に加える．

【授業の特徴・形式】
教科書および配布プリントを用いた講義形式にて行う。
適宜、確認テストを行うので、復習を必ず行うこと。

【教科書・参考書】
配布プリント
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理　全国柔道整復学校協会 監修　（医歯薬出版）
関係法規 2024年版　全国柔道整復学校協会 監修　（医歯薬出版）
衛生学・公衆衛生学 改訂第6版　全国柔道整復学校協会 監修　（南江堂）

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 職業倫理とは | 講義 |
| 2 | 医療倫理 | 講義 |
| 3 | 医療面接 | 講義 |
| 4 | 患者の権利 | 講義 |
| 5 | 個人情報の保護 | 講義 |
| 6 | 医療の安全（リスクマネジメント） | 講義 |
| 7 | 医療の安全（医療事故と医療過誤） | 講義 |
| 8 | まとめ | 講義 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第1期、2期 | 紺野 直能 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門基礎分野 | 柔道① | 2 単位 60 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】
柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投の形の理合を理解し、認定実技審査に合格できるようにする。

【講義概要】
武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

【成績評価方法】
評価項目：授業意欲、、実技試験、（レポート）。
評価割合：授業意欲、態度５０％、実技試験５０％の合計１００％
※出席回数（各学期にて３回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）

【授業の特徴・形式】
柔道実技（礼法、受身、基本動作、打込、投込、乱取、固技、投技）

【教科書・参考書】
柔道　（南江堂）

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 柔道整復師と講道館柔道、柔道授業の目的 | 実技 |
| 2 | 柔道衣の着方、礼法、基本動作（姿勢、組み方、進退動作、体捌き、崩し） | 実技 |
| 3 | 柔道衣の着方、礼法、基本動作（姿勢、組み方、進退動作、体捌き、崩し） | 実技 |
| 4 | 受身（後受身、前受身、横受身、前回受身） | 実技 |
| 5 | 受身（後受身、前受身、横受身、前回受身） | 実技 |
| 6 | 立技　足技（膝車）、腰技（大腰）、手技（体落） | 実技 |
| 7 | 立技　足技（膝車）、腰技（大腰）、手技（体落） | 実技 |
| 8 | 立技　足技（膝車）、腰技（大腰）、手技（体落） | 実技 |
| 9 | 立技　足技（膝車）、腰技（大腰）、手技（体落） | 実技 |
| 10 | 立技　打ち込み、移動打ち込み、投げ込み | 実技 |
| 11 | 立技　打ち込み、移動打ち込み、投げ込み | 実技 |
| 12 | 立技　打ち込み、移動打ち込み、投げ込み | 実技 |
| 13 | 立技の乱取り稽古 | 実技 |
| 14 | 立技の乱取り稽古 | 実技 |
| 15 | 立技の乱取り稽古 | 実技 |
| 16 | 立技　打ち込み、移動打ち込み、投げ込み | 実技 |
| 17 | 固技　袈裟固、横四方固、上四方固、絞技（裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞め）、関節技（腕挫十字固） | 実技 |
| 18 | 固技　袈裟固、横四方固、上四方固、絞技（裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞め）、関節技（腕挫十字固） | 実技 |
| 19 | 固技　袈裟固、横四方固、上四方固、絞技（裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞め）、関節技（腕挫十字固） | 実技 |
| 20 | 礼法、受身、基本動作、打ち込み、投げ込み、審判規定、立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 21 | 礼法、受身、基本動作、打ち込み、投げ込み、審判規定、立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 22 | 礼法、受身、基本動作、打ち込み、投げ込み、審判規定、立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 23 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 24 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 25 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 26 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 27 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 28 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 29 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |
| 30 | 立技、固技の乱取り稽古 | 実技 |

# 東京柔道整復専門学校

| 開講課程 | 開講学科 | コース | 昼夜別 |
|---|---|---|---|
| 柔道整復専門課程 | 柔道整復科 | 柔道整復コース(3年制) | 夜間部 |
| 開講年度 | 履修課程 | 担当教員 | |
| 2024 年度 | 1年生 第2・3期 | ◎荒井一彦 ・吉田 晋・紺野直能 ・井口良平・菊地正 | |
| 講義区分 | 授業科目名 | | |
| 専門分野 | 臨床実習(1年生) | 1 単位 45 時間 | |

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際に接骨院で行われる業務と柔道整復術を理解する。

【講義概要】

臨床実習を行うにあたり、先ずは医療接遇（挨拶、声掛け、姿勢）の重要性を自覚する。そうして、患者を通し「柔道整復師として」「医療人として」「人間として」ルールを守り、人との接し方・関わり方を身に付ける。
また、柔道整復師が通常の施術において、どのような事を行っているかを学ぶ。2年次の臨床実習を踏まえ、知識や技術を習得する。

【成績評価方法】

・評価の観点は、意欲態度（35%）付帯業務（10%）診察補助（40%）業務理解（15%）の４項目とする。
・実習過程で学生の進捗状況を評価し、まとめる。

【授業の特徴・形式】

・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】

・包帯固定学　南江堂
・柔道整復学　理論編　　南江堂
・柔道整復学　実技編　　南江堂

【 講義の内容・日程 】

| 回 | 実施日 | 講義内容 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 第1～4日目 | 院内清掃 | 実技 |
| 2 | | 挨拶、声掛け | 実技 |
| 3 | | 医療面接の基礎 | 実技 |
| 4 | | 患者評価(体表解剖、ROM評価等) | 実技 |
| 5 | | 診療補助①(物理療法の基礎、基本包帯法等) | 実技 |
| 6 | | 診療補助②(整復、固定補助) | 実技 |
| 7 | | 各疾患のQ＆A | 実技 |
| 8 | | | 実技 |
| 9 | | | 実技 |
| 10 | | | 実技 |
| 11 | | | 実技 |
| 12 | 第5日目 | 総まとめ | 実技 |